

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年5月15日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2774500827
法人名	株式会社 泉州
事業所名	グループホーム泉州
所在地	泉佐野市湊2丁目1番32号 (電話) 072-464-2101

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 4月 20日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	17人
職員数	15人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算	11.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	59,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要 (平成 21年 3月 1日現在)

利用者人数	16名	男性	0名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 84歳	最低	68歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉佐野優人会病院、佐野記念病院、西田外科・内科、小北歯科医院、岸村歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域出身の代表者が地元で高齢者福祉に貢献するため設立した営利法人のグループホームで、デイサービスを併設しています。「人は誰でもが幸せでありたい・心身ともに健康でありたい・社会の一員として生きがいを持って暮らしたい・不易の精神を共有し忠恕の心にある」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、利用者は落ち着いて和気あいあいと暮らしています。協力医療機関の医師と職員として配置されている看護師が医療連携して、必要な医療と看護を提供しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項について改善が進んでいます。利用者の思いや意向の気付きを毎日介護チェックシートに記入し、介護計画を介護チェックシートと一緒に綴じ込み、介護計画にそって記録を行っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員にも意見を記入してもらうため自己評価を白紙で渡し、管理者が意見をとりまとめて案を作り、主任連絡会議で議論・決定しています。職員間で認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は市職員、民生委員、町会役員、老人会会長、地区福祉委員会、地域有識者、家族の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や月間計画による活動状況、利用者の生活状況、職員の研修内容、新しい防火体制や消防避難訓練、ボランティアの受け入れ等について説明し、地域との交流を深めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。2ヶ月毎にホーム便り「タやけ こやけ」を発行し、写真も載せて利用者の生活状況や行事予定を知らせるようになりました。今後利用者の暮らしぶりや体調を担当職員が手書きの手紙にして定期的に家族に知らせることを計画しています。家族とは面会時だけでなく季節毎に家族も参加する行事を開催して、家族が思いや希望・不満を表せるように対応しています。意見箱も設置し、家族が意見を表せる機会を設けています。しかし、結果としては家族とホーム間で意思疎通は必ずしも十分ではなく、双方の意見や主張はすれ違っている場合があります。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は、地域住民や老人クラブの方が来訪してくれたり、地域福祉委員会の食事会に参加したり、地域のボランティアと手芸やレクリエーション、会話を等して交流し楽しんでいます。中学校の体験学習も受け入れ、保育園児との交流も予定しています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人は誰でもが幸せでありたい・心身ともに健康でありたい・社会の一員として生きがいを持って暮らしたい・不易の精神を共有し忠恕の心にある」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。月例の主任連絡会議やケア会議、ユニット別フロア会議等、毎日の業務等を通じて理念を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	利用者は、地区福祉委員会の食事会に参加しています。また地域ボランティアと手芸やレクリエーション、会話をする等して交流し、楽しんでいます。その他、地域住民や老人クラブの方の来訪があり、中学校の体験学習も受け入れています。保育園児との交流も予定しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について改善が進んでいます。利用者の思いや意向の気付きを毎日介護チェックシートに記入するようになり、介護計画を介護チェックシートと一緒に綴じ込み、介護計画にそって記録するようになりました。自己評価は、職員にも意見を記入してもらうため自己評価を白紙で渡し、管理者が意見をとりまとめて案を作り、主任連絡会議で議論・決定しています。職員間で認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員、民生委員、町会役員、老人会会長、地区福祉委員会、地域有識者、家族代表、職員参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や月間計画による活動状況、利用者の生活状況、職員の研修内容、新しい防火体制や消防避難訓練報告、ボランティアの受け入れ等について説明し、地域との交流を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員や地域包括支援センターを訪ねて相談や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいます。市の事業者連絡会議が近々スタートする予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。ホーム便り「夕やけ こやけ」を2ヶ月毎に発刊し、写真も載せて利用者の生活状況や行事予定を知らせるようになりました。今後利用者の暮らしぶりや体調を担当職員が手書きの手紙にして定期的に家族に知らせることを計画しています。運営推進会議の議事録についても家族に送付することを検討されてはいかがでしょうか。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく季節毎に家族も参加する行事を開催して、家族が思いや希望・不満を表せるように対応しています。意見箱も設置して、家族が意見を表せる機会を設けています。しかし、結果としては家族とホーム間で意思疎通は必ずしも十分ではなく、双方の意見や主張はすれ違っている場合がある状況です。	○	家族が意見や要望を出せるように、職員が積極的に説明を行い働きかけていく工夫が求められます。例えば、介護計画見直し時のサービス担当者会議に家族の出席を要請したり、家族が行事に参加しやすいよう計画したり、認知症勉強会の開催やアンケート実施等を実行されてはいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規の非常勤職員が短期で退職することはありますが、その他の職員の退職は減少し落ち着いてきています。重度の利用者に職員が個別に寄り添い会話をしたり、一緒に作業をしたり、機能改善や認知症予防の運動をしたりする等、職員と利用者との馴染みの関係も深く、利用者の会話もあって、元気で和気あいあいとした雰囲気があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成教育に熱心で、職員は大阪認知症高齢者グループホーム協議会や市の外部研修に参加しています。内部研修会では、感染症や認知症、ターミナルケア、食事等のテーマで実施し、伝達研修も行い職員のレベルアップを図っています。新人職員の採用時研修を計画的に実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入して相互研修で交流するとともに、近隣のグループホームとも現場職員間の交流研修会を実施しようとしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が家庭訪問を行い、また本人や家族がホームに来訪するなど、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居し、サービスを受けられるように取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、家事や行事を通して学び支えあう関係を目指した支援を行っています。利用者は手芸をしたり、絵を描いたり、習字が好きな利用者には習字を書いてもらうこともあります。職員は利用者から昔の生活や苦勞を聞くことが、大きな人生勉強となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望は、入居時に家族や利用者から聞き取り「日常生活個別シート」に記録しています。その後、毎日の生活を通じて得た生活歴や意向の新たな気付きについても「介護チェックシート」に毎日記録し、利用者一人ひとりの暮らしや希望の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを実施し、利用者の現在の暮らしや願い、心身の状況を把握しています。また医師や看護師の意見、家族の意向を反映させ、さらに個別の機能改善・予防運動も盛り込んだ介護計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。毎日のケアを「介護チェックシート」に記録し、ケアマネジャーが定期的にモニタリングを行い、担当職員と看護師を交えてケース検討を行い、6ヶ月毎に定例ケア会議を開催して介護計画の見直しにつなげています。ただ、介護計画の項目と援助項目が多く、介護チェックシートの実績の記録、モニタリングの項目が必ずしも連動していないため、分かりにくい状況になっています。	○	介護計画の項目を整理・重点化するとともに、毎日の「介護チェックシート」の記録内容や定期的なモニタリング項目と連動して作成することが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の医師と職員として配置されている看護師との医療連携により、必要な医療と看護を提供しています。ホームでは必要の都度通院介助も行っています。手芸やレクリエーション等、地域ボランティアの支援を受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師による往診医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前のかかりつけ医療機関から引き続き医療を受けています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「看取りに関する指針」を示し、家族の意向も確認しています。状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を続けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。入浴や食事の時間等について柔軟に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食は食材業者から届く食材を使い、職員が調理しています。食事準備、盛り付け、後片付け等の一連の作業に利用者も得意な分野で参加し楽しんでいます。月に2回は手作り昼食と手作りおやつのお機会をつくり、買い物から調理まで利用者も参加しています。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。菜園で取れた野菜が食卓にのることもあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は週に3回、冬場は2回の入浴と入浴のない日は足浴を行っています。希望があればいつでも入浴が可能です。今後は新併設のデイサービスの大きなお風呂も活用し、シーズンを通して利用者の週3回の入浴ができるよう体制整備と雰囲気作りが望まれます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。毎月の風物や行事を表現する大型のちぎり絵を役割分担して完成させ、ボランティアと一緒に手芸や書道、歌体操、手話、輪投げやボウリングなどのゲーム等を楽しんでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には周辺の神社やお寺、商店街、海岸への散歩コースを楽しんでいます。利用者の希望を聞いて買い物や外食にも出かけ、季節の花や風物、行事を楽しむ外出もしています。また、月1回は計画を立て少人数で空港や魚市場、図書館、近隣の観光名所等、ドライブを楽しむ支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアドア、玄関扉とも日中開錠しています。外出願望のある利用者にも職員の見守りにより対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署の立会いのもと実施しています。非常・災害時の食料品と水の備蓄も行っています。新しく定められたスプリンクラー等の防火体制についても消防署の指導のもと早期に実施する予定です。今後、地域との協力体制が得られるような話し合いをされてはいかがでしょうか。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては、食材業者の管理栄養士とホームの看護師よりアドバイスを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口には植木や季節の鉢植えの花や活け花絵画、ベンチがあり訪ねやすい雰囲気になっています。リビング兼ダイニングルームは広く、台所周りの回廊式廊下や、機能改善・予防体操用床のあるスペース、ゆったりとしたソファの配置は機能的です。手作りカレンダーや行事写真、季節を表す手作り作品、ボランティアと一緒に作った手芸品も飾っていて、落ち着いた生活感のある家庭的な空間になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には古風な整理ダンス、飾り棚、洋服掛け、籐椅子、椅子、テレビ、ラジカセ、書籍、アルバム、手作り手芸作品、家族の写真等使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、個性的な居室になっています。居室に畳を敷く利用者もいます。また家族の思いも感じられ、落ち着き安心して生活できる空間になっています。		